

2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	拡張排水システム刊行小委員会		主 査 名：古賀 誉章 就任年月：2020 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)		委員長名：秋元 孝之 主 査 名：持田 灯
設 置 期 間	2020 年 4 月 ～ 2022 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	2016 年 2 月に刊行した「日本建築学会環境基準 AIJES-B003-2016 機械・サイホン排水システム設計ガイドライン」の副読本として、「(仮称) 拡張排水システムの設計」を刊行することを目的としていたが、掲載内容の精査などに時間を要したため、活動期間を延長し、刊行を完遂させることを目的とする。		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無： なし		
	主査：古賀誉章(宇都宮大) 幹事：光永威彦(明治大)、臼井政夫 (スマートホンジャパン) 委員：安孫子義彦(シヅカ)、稲田朝夫(須賀工業)、岡内繁和(明治大)、 小川治久(日本総合住生活)、奥野祐一(TOTO)、門脇耕三(明治大)、 小島邦晴(共立エステート)、坂上恭助(明治大)、仲川ゆり(JR 東日本ビルテック)、 江口尚志(積水化学工業)、栗本到 (ブリヂストン)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2021 年度予算	5,000 円	ホームページ公開の有無： なし 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	排水から建築をかえる ―拡張排水システム (小型圧送システム, 真空排水システム, サイホン雨水排水システム, サイホン雑排水システム, 自封トラップ) の設計方法― ※2022 年5月予定
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	刊行作業はやや遅れたが、出版社に入稿され、2022 年 3 月に校正原稿を確認し、次年度 5 月頃に刊行の見通しをつけることができた (80%)
委員会活動の問題点 ・課題	1. コロナ禍で出版社の入稿から校正原稿の確認までに通常より時間を要した。 2. 遠隔会議に対応できない委員は、小委員会に参加できない場合が生じた。

2021 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>外部査読者も含めた十分な査読を実施したため、やや刊行準備作業の遅れが生じた。加えて、コロナ禍により出版社における入稿から校正原稿までに要する期間が通常より長くなったことから、進捗は目標からやや遅れ、3月の本小委員会の設置期間内の刊行は果たせなかった。</p> <p>しかし、遠隔参加を主として、年度当初計画通り小委員会を6回開催し、昨年度の内部査読結果および今年度の外部査読結果に対して丁寧に対応した。結果的に、来年度前半（5月頃）の刊行の見通しをつけることができた。</p> <p>コロナ禍があったとはいえ、当初の刊行予定から2年半超過しての刊行完遂予定となるため、反省の意味もあり達成度80%（B）と評価した。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。